

農村に住む女性の農村開発への積極的な関与について 女性グループ (Kelompok Karya Ibu; KKI) の果たしている役割の評価 —インドネシア西バンドン地区の農村地域を対象として

Adzani Ardhanareswari Ameridyani

キーワード：ソーシャルネットワーク分析，農村コミュニティ，女性グループ，家畜排せつ物管理

1. 研究背景

効率的な農業経営と環境保全の両立は、世界各地の農村開発が直面している課題である。国連食料農業機関 (FAO) は、畜産経営の過程で発生する家畜排せつ物が深刻な環境問題を引き起こしており、特に陸地や水の環境劣化の主要な原因となっていることを報告している¹。環境劣化リスクを軽減するため、畜産経営における適切な家畜排せつ物の管理が不可欠となっている。農村開発における課題解決のための戦略として注目されているのがルーラル・イノベーション (農村社会における技術革新) である²。近年、技術革新を通じた農村の経済状況や環境の改善に、女性が重要な役割を果たしていることが明らかになっている³。

インドネシアのアレン村 (Kampung Areng) には、酪農を主生業とする世帯が多く居住しており、水質や土壌の汚染が問題視されてきた。こうした問題の改善策として現地の NGO や行政機関は、牛の排せつ物をバイオガスとして再利用するシステムを導入したが、バイオガスの発生過程においてスラリーと呼ばれる懸濁液が副産物として生成されてしまう難点があった。これに対しアレン村では、女性グループ KKI (Kelompok Karya Ibu) が独自にスラリーを活用した有機堆肥を生産し、副収入にもなり廃棄物ゼロのバイオガス利用を可能としている。本研究は (1) アレン村の社会ネットワークにおける KKI の位置づけと役割を明らかにすること、(2) 社会参画機会の不足など、農村に住む女性が抱えている問題に対する KKI の貢献度を評価すること、そして (3) 一連の実証研究を通じて社会ネットワークと農村における技術革新の関連性を再評価することを目的とした。

2. 対象地域および研究手法

対象地であるアレン村は、インドネシア西ジャワ州バンドン地区の西部に位置し、南はチカプンダウン川 (Cikapundung) に接している。調査は 2017 年 2 月～3 月および同年 9 月～10 月の 2 期間において実施し、13 名の情報提供者に対する聞き取りと、アンケート調査 (回答 126) によってデータを収集した。調査対象はいずれもアレン村に居住している女性である。データ解析にはソーシャルネットワーク分析を用いた。

3. 結果および結論

ソーシャルネットワーク分析によりアレン村におけるアクターの中心性を検証した結果、KKI がアレン村の社会ネットワークの中で地域内部者と外部者を媒介する役割を果たしていることが明らかになった。KKI の存在によって村に住む女性らは教育機会や地域の意思決定への参画機会の不足という問題を克服し、また在来知識や強い活動意志を活かして、地域外部者や自身以外の地域内部者と相互知識を共有する関係を築いていることが示唆された。アレン村の女性は KKI の設立以前から有機堆肥を生産しており、KKI の設立以降この有機堆肥生産の技術を村内のみならず村外へと広めた。すなわち村に住む女性の持つ在来知識が、初期の段階から KKI が独自、ないしは外部協力なしに農村社会において技術革新を起こすことを可能にしたと考えられる。農村の技術革新がもたらす影響やその有効範囲は、様々なアクターとのネットワーク構築によってより発展すると考えられる。従って農村の女性が持つ社会ネットワークの媒介者としての可能性を今一度評価し、農村開発において受動的な立場に立たされている女性らの状況を改善することが喫緊の課題だと考えられる。

- 1) FAO. Livestock's long shadow - environmental issues and options. *Food Agric. Organ. United Nations* 3, 1-377 (2006).
- 2) Mahroum, S. et al. Rural Innovation. *NESTA (National Endow. Sci. Technol. Arts)* (2007).
- 3) Fhlatharta, A. M. N. & Farrell, M. Unravelling the strands of 'patriarchy' in rural innovation: A study of female innovators and their contribution to rural Connemara. *J. Rural Stud.* 54, 15-27 (2017).